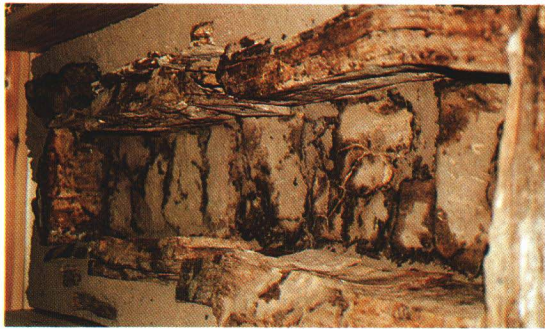


(2) 農業の始まり

約2,000年前ごろ米づくりが伝わったために、人々は川のそばに、水田をつくって住むようになりました。米づくりがさかんになると、さらに水田をつくったので、村もふえました。

たくさんの村ができるとその村々をおさめる豪族ごうぞくもあらわれました。古墳こふんは豪族の墓はかで、その墓の大きさと力の強さがわかります。八重松からは古墳の石棺せっかんが発見されています。



組合せ式石棺（八重松出土）

(3) 武士の世の中へ

広い土地をおさめるようになった豪族は、たえず他の豪族と争い、たくさんの武士をやとって自分を守りました。のちには武士が豪族にとって代わりか、力の強い武士が領主りょうしゅとなり、地方を治めました。

会津地方に大きな力をもっていた領主は、芦名氏あしなしで、16代盛氏もりうじは白鳳山はくほうざんに向羽黒山城むかいくろさんを築きずきました。本郷町はその城下町としてさかえ、中でも三日町、六日町、本郷町いちばは市場としてにぎわいました。